

第3回 海洋立国推進功労者表彰 受賞者リスト

1. 「海洋立国日本の推進に関する特別な功績」分野

部 門	氏名・名称	年 齢	所 属	功 績 事 項
普及啓発	いしはら よしかた 石原 義剛	72	海の博物館館長	【海洋に関する文化財の収蔵・展示】 三重県鳥羽市にある「海の博物館」を昭和46年から二代にわたり私財を投じて運営している。当博物館は国指定重要有形民俗文化財6,897点を含む約58,000点を展示する日本一の規模を誇る博物館として、「海」と「人間」との深い関わりを伝えている。また、海の博物館の展示だけにとどまらず、積極的に講演や海の環境問題にも力を入れている。
普及啓発	しずおかけんりつ 静岡県立 やいづ すいさんこうとう がっこう 焼津水産高等学校	—	静岡県	【総合的な海洋教育】 永年にわたり漁業および水産加工分野を中心に水産教育を推進し、その間多くの水産関連人材を輩出した。あわせて、地域に根ざした商品の開発等でも地元の活性化に大きく貢献した。また、実習船「やいづ」は、海上保安庁へのデータ提供、国際プロジェクトであるアルゴ計画への参画など、地域を越えた貢献もしている。
科学技術	うえはら はるお 上原 春男	70	元佐賀大学長	【海洋温度差発電に関する研究】 長年にわたり「海洋温度差発電」についての研究に従事し、今後の実用化に資する今までにない高効率なシステムを発明した。また、水の淡水化や水素製造に、この技術を活用する仕組みについても研究を推進した。さらに、国連本部で、海洋温度差発電についての講演を行うなど、長年に渡り研究だけではなく技術普及や啓蒙活動にも従事した。
地域振興	いしだ はじめ 石田 啓	63	金沢大学理工研究域環境 デザイン学系教授	【工学的知見を用いた景観保全】 「寄り回り波災害」において軽減効果を発揮した富山湾の新型有脚式離岸堤の建設指導や日本三大松原の一つである気比松原の優れた景観を損なうことなく養浜を成功させ観光客の増加に寄与する等、30年以上に亘り、海岸工学や流体力学の学術知見を基に、北陸沿岸全体の海岸や港湾の計画・保全に努め、種々の問題解決を図った。

※年齢は平成22年 7 月 1 日現在。

第3回 海洋立国推進功労者表彰 受賞者リスト

2. 「海洋に関する顕著な功績」分野

部 門	氏名・名称	年 齢	所 属	功 績 事 項
科学技術振興	たかはし こうぞう 高橋 孝三	62	九州大学大学院教授	【海洋における気候変動研究】 厳しい気象環境のため、過去にほとんど行われなかった北極域における海洋調査を国際プロジェクトとして推進し、海洋による二酸化炭素の吸収・放出、生物による炭素の固定化など地球温暖化について理解を深める上で重要な極域での炭素循環の解明に貢献。5000万年前の温暖な時代の北極海の様子を明らかにするなど成果をあげた。
水産振興	きんぎ だいがくすいさんけんきゅうしよ 近畿大学水産研究所	—	学校法人近畿大学	【クロマグロの完全養殖と量産化】 近畿大学水産研究所では、2002年に世界で初めてクロマグロの完全養殖を達成した。その後も生残率の向上など産業化を目指した研究を続けた結果、完全養殖クロマグロ幼魚の養殖用種苗の生産尾数が2009年には約4万尾に拡大した。クロマグロをめぐる国際的な資源問題の解決策を提示した。
海事	なかむら つねお 中村 庸夫	60	海洋写真家	【海洋に関する芸術活動】 海洋写真家の第一人者として、帆船や客船の写真のみならず、海洋生物、海の食材等の写真を通じ、日本の海洋文化を諸外国に紹介した。また、世界各国の船を日本において紹介し、双方の海事思想の普及に寄与した。

※「自然環境保全」部門については該当者なし。

※年齢は平成22年7月1日現在。